

歴文3月研修会資料

龍田古道と万葉歌碑巡り

日時… 三月十三日(火) JR大和路線三郷駅十時集合
行程… JR三郷駅 ↓ 龍田大社 ↓ 神奈備神社 ↓ 犬養先生万葉歌碑 ↓
磐瀬の杜 ↓ 峠八幡神社(昼食) ↓ 亀の瀬地滑り資料館 ↓ JR河内堅上駅
十五時頃解散 約6kmの行程です
持物… 弁当、飲み物、雨具、おやつ等

龍田大社



創祀 延喜式によれば二二〇八年前崇神天皇のころとなっている。確かな記録としては天武天皇四年(一三三四年前)に壬申の乱の勝利の御礼に使者を龍田に使わし…遣いして、風神を龍田の立野に祀らしむ…大忌神を広瀬の河曲に祭らしむ…とある。

ご祭神

志那都比古神 (しなつひこのかみ)

志那都比売神 (しなつひめのかみ)

シナとは息長 氣息が長く吹きわたるの意で天地宇宙万物創生の源・大元のはじまりの気を司る神様、すなわち風の神様です

宮司様の話によれば礼拝所はマイナスイオンの靈氣に満ちたパワースポットだそうです。お祭りは四月の例祭と七月第一日曜日の「風鎮祭」で、特に風鎮祭は有名。御神域で風神の靈氣を感じ得して下さい。

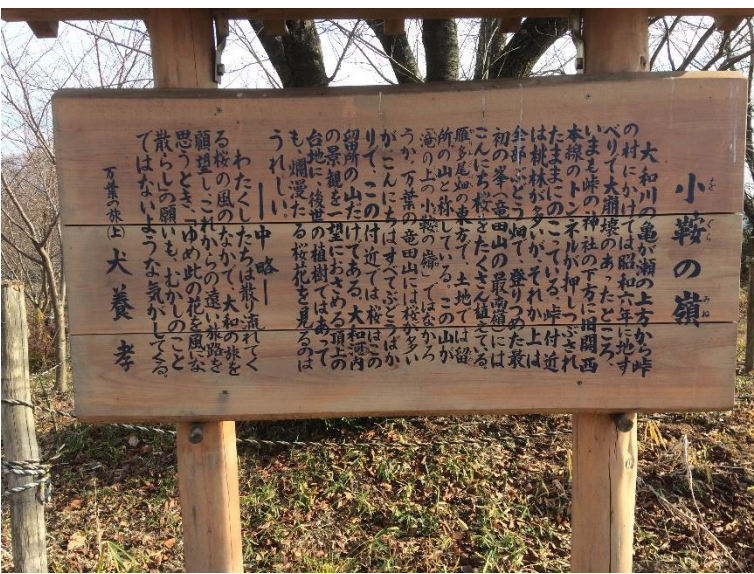
日本には神社が約七万社ありますが、官幣大社は六五社あります、その中でも序列があり、龍田大社は上から十二番目の社格の高い社です。

神奈備神社

甘南備とも書き、各地に見られる。神が降臨された神聖な土地という意味です
入口に万葉歌碑あり

犬養孝先生揮毫の万葉歌碑の前で

名著「万葉の旅」の中で紹介された小鞍の嶺



春三月に諸の卿大夫等難波に下りし時の歌

我が行きは 七日は過ぎじ 龍田彦 ゆめこの花を 風にな散らし

高橋虫麻呂 巻九一―一七四八

(わたしの旅は七日以上にはなるまい。だから龍田彦よ、決してこの花をちらさないでくれ)

磐瀬の杜の歌碑の前で

鏡王女について

かがみのおおきみ、生年不詳 683年没、日本書紀では鏡姫王と記す。興福寺縁起では藤原不比等の生母と記載。額田王の姉との説がある。始め天智の妃であったが、後鎌足の正妻となる。鎌足の病氣平癒を祈り山階(やましな)寺を(後の興福寺)を建立した。舒明天皇押坂陵内に墓があることから舒明天皇の近親という説もある。いずれにせよ素性は謎につつまれているが万葉集に4首のすばらしい歌を残している。

神奈備の 伊波瀬の杜の 呼子鳥 いたくな鳴きそ 我が恋増さる

鏡王女 卷八一―一四一九

(神のくだる伊波瀬の杜の森で、呼子鳥よ、ひどく鳴いてくれるな。わが恋心もつのもろものを)

天皇の鏡王女に賜へる御歌一首

妹が家も 継ぎて見ましを 大和なる 大島の嶺に 家もあらましを

天智天皇 卷二一九一

(お前の家も見続けていたいのに、大和の大島の山に家があればよいものを)

(鏡王女の大王へ奉れる御歌一首)

秋山の 樹の下隠り 逝く水の われこそ益さめ 御思よりは

鏡王女 卷二一九二

(秋山の木の葉がぐれに流れるように、姿は見せませずとも、天皇がお思ひくださる何倍も私はお慕いしています)

三郷町町制施行五十周年記念の歌碑

龍田山 見つつ越え来し 櫻花 散りか過ぎなむ 我が帰るとに

大伴家持 卷二十一―四三九五

(龍田の山の桜を観ながら越えてきた 私が帰るころにはもう散ってしまっているだろうなあ)

(平群郎女、大伴家持に贈る歌十二首の一)

君により 我が名はすでに 龍田山 絶えたる恋の 繁きころかも

平群郎女 卷十七―三九三二

(あなたによって私の恋の噂は立ってしまいました。龍田山のように、それでいて途絶えた恋がひどく苦しいこの頃です)

ちはやぶる 神代も聞かず 龍田川 からくれないに みずくくるとは

在原業平 古今集

(神々の御代でもそのことがあったとは聞いていない。龍田川が深い紅色に水をくくり染めるとは)

峠八幡神社

龍田古道沿いにある鎮守社、前に地蔵があり昔も今も旅人の安全を守る。ここで道は上ツ道と分かれる



亀の瀬地滑り記念館

亀の瀬は日本有数の地滑り地帯であり、現在も地滑り防止対策工事が継続されている。またここは江戸期から明治初期にかけては大和川を利用した舟運の積み替え地であり、大和側は底の浅い梁船でここまで大和の物産を運び、ここから大阪へは剣先舟と呼ばれる舳先の尖った船に積み替えて物産を運んだ。また旧大阪鉄道（現JR大和路線）のトンネルが通っていたが、昭和7年の崩落で埋まってしまった。現在はトンネルは別の場所を通っている。平成20年偶然旧トンネルの隧道が発見され地滑り資料館で見学することができる。

以上